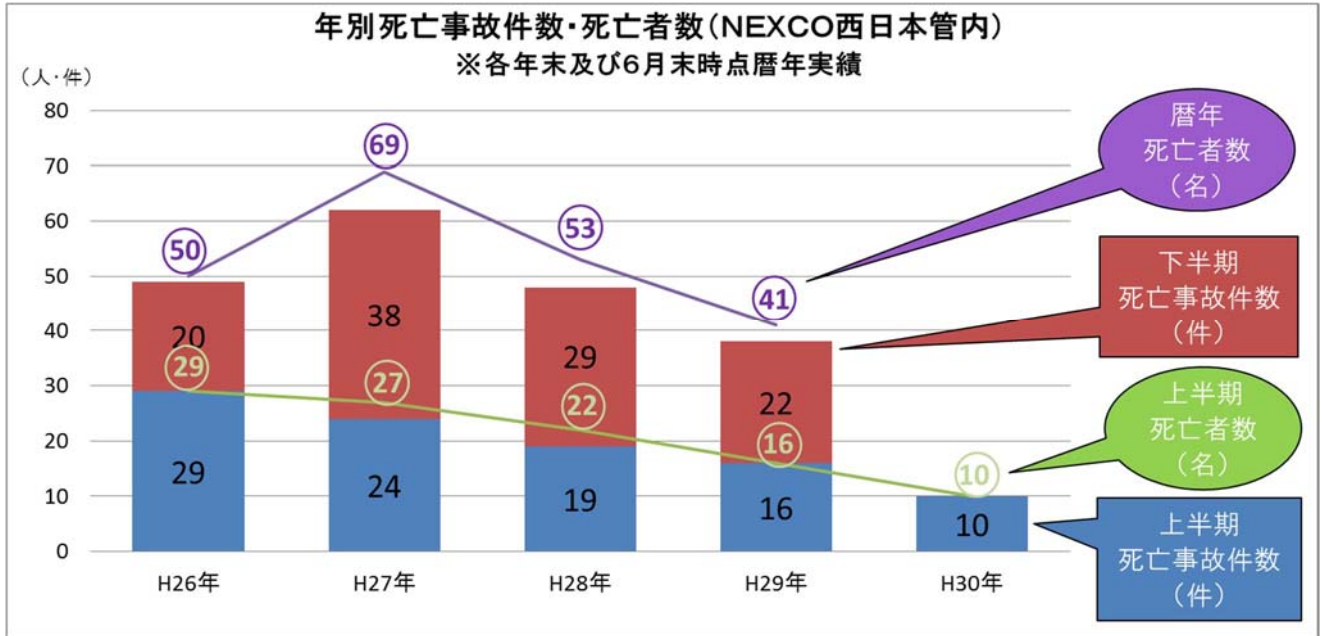


〔資料中の値は、特に記載のあるものを除き、全てNEXCO西日本調べ（平成30年1月から6月までの速報値）〕

1. 交通死亡事故発生状況について

《① 死亡事故件数・死亡者数(H26～30年上半期)》

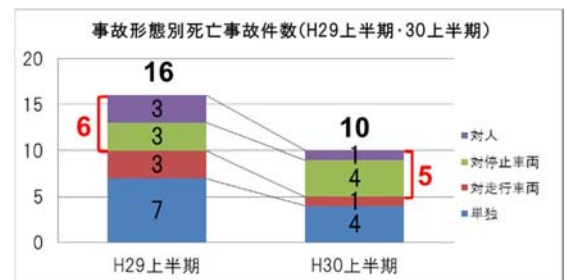
平成30年上半期の交通死亡事故発生状況は、過去5年間の上半期と比較して、交通死亡事故件数・死亡者数ともに最も低い水準となっております。



《② 死亡事故の特徴と傾向》

死亡事故の発生状況を前年と比較すると、事故形態別では、全体件数は減少したものの、「まさか! (※)の事故」が依然として発生(H29:6件→H30:5件)しており、看過できない状況にあります。

※「まさか!の事故」=直前の事故や故障等により高速道路上に立っている人や、停止している車両等に衝突する事故(対人事故+対停止車両事故)



《③ 平成30年上半期に発生した死亡事故の概要(例)》

【対停止車両:2月5日(京滋バイパス)】	【対人:5月22日(第二京阪道路)】
<p>②追突の反動で普通乗用が路肩へ移動したのちに炎上</p> <p>①中型貨物が、渋滞により追越車線に停止していた普通乗用に追突</p> <p>路肩</p> <p>走行</p> <p>追越</p>	<p>路肩</p> <p>第一走行</p> <p>第二走行</p> <p>追越</p> <p>中央分離帯</p>
<p>中型貨物が追越車線を進行中、渋滞により追越車線上に停止していた普通乗用に追突、反動で普通乗用は路肩まで移動したのち炎上したもの。普通乗用運転手の女性1名が死亡。</p>	<p>普通乗用が第二走行車線を進行中、何らかの理由で中央分離帯側から路肩側へ高速道路本線を横断中の歩行者と衝突したもの。歩行者の男性1名が死亡。(歩行者は前方路肩停止の二輪運転手と判明)</p>

2. 事故防止に向けた NEXCO 西日本の取り組み等

NEXCO 西日本では、高速道路をご利用のお客さまに安心・快適な道路環境を提供するため、各種交通安全対策に取り組んでおります。

《①逆走対策》

平成 30 年上半期の発生はありませんでしたが、過去には逆走に起因する死亡事故が発生しております。

(H29:1 件、H28:3 件)

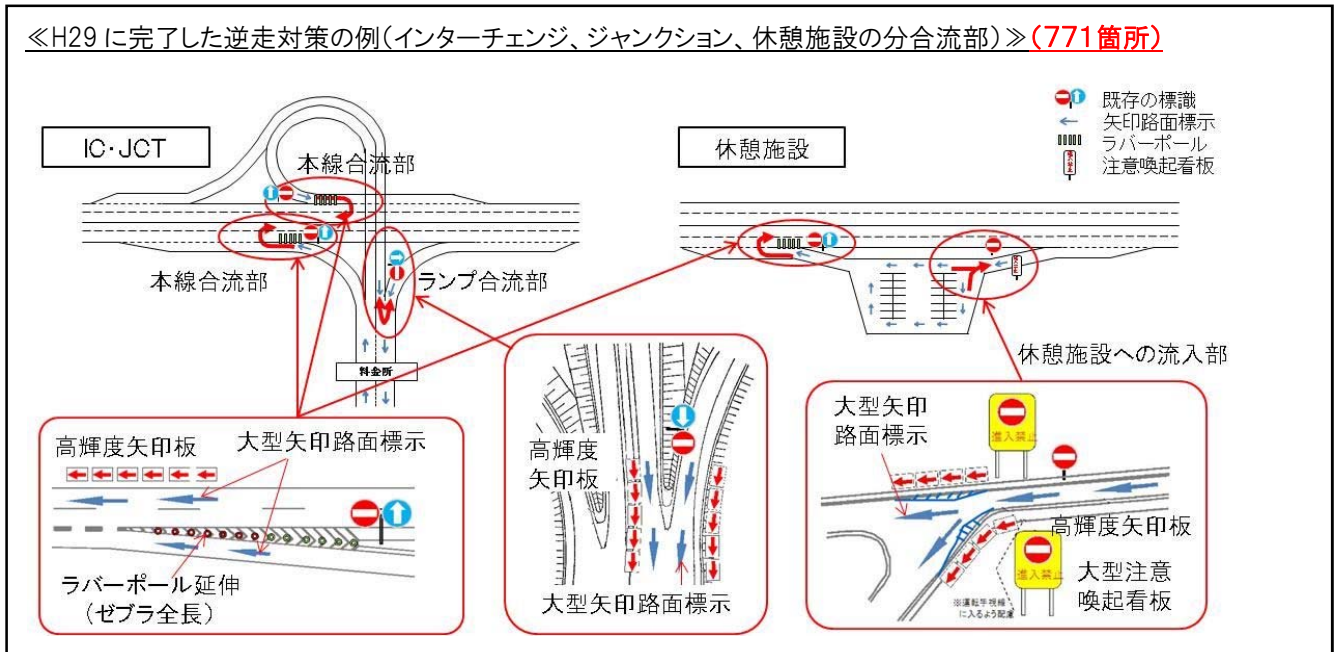
NEXCO 西日本ではこうした状況を受け、逆走事故ゼロを早期に実現すべく各種対策に取り組んでおります。

■ ハード対策

現在、高速道路関係 6 会社では、国土交通省をはじめ関係機関と連携して、全ての IC・JCT 部等での物理的・視覚的対策を進めており、NEXCO 西日本においては平成 29 年 10 月をもって完了しました。

現在は引き続き IC の一般道接続部及び料金所周囲の逆走対策を進めております。

更に、対策のより一層の推進を図るため、民間企業等から提案のあった逆走対策技術等の実道での検証を進めております。



■ ソフト対策(逆走防止に向けた啓発・広報の強化)

NEXCO 西日本では、従前より、ホームページや各種チラシ・リーフレット、キャンペーン等により逆走防止に向けた啓発・広報を行うとともに、逆走防止用啓発教材を作成し、西日本エリアの各警察関係機関へ配布及び本教材のホームページへの掲載を行っております。

また、NEXCO 東日本・中日本と連携した逆走防止統一啓発として、平成 29 年に引き続き、平成 30 年においてもテレビ・新聞等のマスメディアを通じた広報を実施しております。

《教材ダウンロード画面(当社ホームページ)》



《逆走防止統一啓発ロゴマーク及びキャッチフレーズ》



逆走は命にかかわる危険行為です。

—— 逆走しない、させない、事故にしない ——

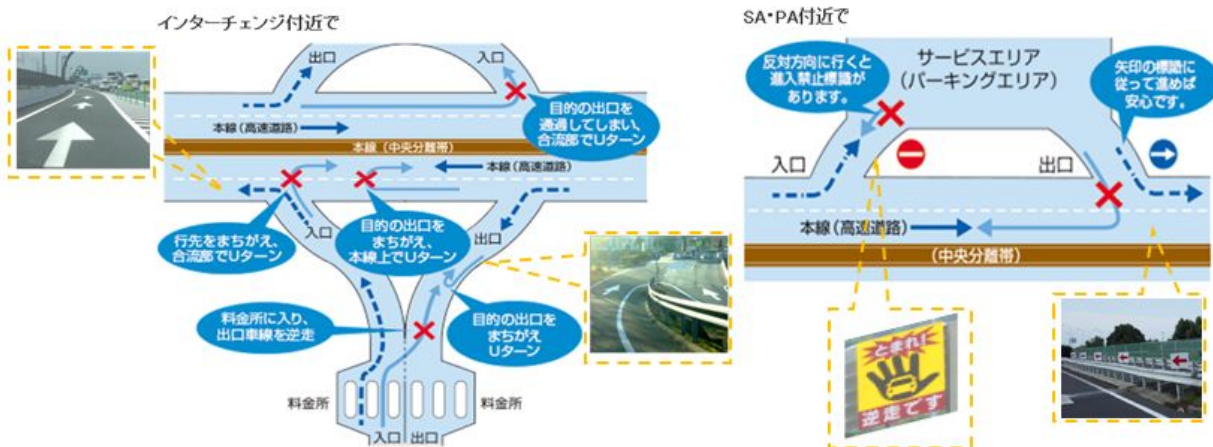
《参考》お客さまへのお願い

高速道路における逆走行為は、ひとたび事故が発生すると重大事故に繋がるばかりか、何の落ち度もなく運転されている他のお客さまにも甚大な被害を与える可能性がある非常に危険な行為です。絶対におやめください。

【高速道路は一方通行です】

- ☑ 逆走しないために、案内標識や路面標示などで進行方向を十分確認し走行してください。
- ☑ もし目的のICを行き過ぎてしまっても、本線上や料金所付近では絶対にUターンやバックをせず、そのまま走行し次のICで降りて料金所係員にお申し出ください。

逆走はこんな所で起こりやすい！



【逆走車を発見したら】

- ☑ 逆走車を見かけたら、料金所係員への通報のほか、最寄りのSA・PAの非常電話や、同乗者の方から110番・道路緊急ダイヤル(#9910)などで通報をお願いします。通報をいただくと、逆走車の発生を道路情報板やハイウェイラジオで直ちにお知らせいたします。
- ☑ 逆走車の情報を見たり聞いたりしたら、速度を落とし、十分な車間距離をとって前方車両の動向を注視しながら走行してください。
- ☑ 逆走車を前方に発見したら、路肩などの安全な場所に停止して衝突を避けてください。

《②交通安全啓発活動》

NEXCO西日本グループでは、SA・PA、料金所及び地域の交通安全イベント等において、年間200回を超える「交通安全キャンペーン」を開催しているほか、運輸系企業、自動車学校及び地域コミュニティ等に出向き、年90回程度「出張講習会」を実施するなど、積極的に各種交通安全啓発活動に取り組んでおります。

また、「愛する人・愛してくれる人を想う気持ち」を原動力に、想いやりの心の輪を広げることで、社会全体で交通事故ゼロを目指す「DRIVE&LOVEプロジェクト」を推進しており、キャッチフレーズ「笑顔の運転～笑顔をつくる運転はやさしさが生み出す～」を合言葉に、認知拡大に向けたPR活動のほか、賛同企業・団体の皆さまとの交流会を開催するなど、活動に取り組んでおります。



《交通安全キャンペーンでのDRIVE&LOVEのPR活動》



《「笑顔の運転」PRチラシ》

3. 落下物に対する NEXCO 西日本グループの取り組み

《交通管理隊・道路管制センターの取り組み》

NEXCO 西日本では、交通管理隊の巡回時に落下物を発見した場合速やかに排除等の対応を行っております。

また、道路管制センターにおいて、道路緊急ダイヤル(#9910)や非常電話などによるお客さまからの連絡などから、速やかに情報板等による情報提供を行うとともに、交通管理隊へ緊急出動を指令し、24 時間 365 日体制で落下物の排除等に努めております。



《落下物排除状況》

《法令違反車両等取締りの取り組み》

高速道路での落下物は、後続車両の重大事故に繋がる¹恐れがあります。そのため、法令違反車両等取締隊(通称:車限隊)が積荷落下防止の是正指導を実施しております。



《積荷の立て直し》



《積荷の固定》



《是正指導状況》

《落下物防止に向けた啓発・広報活動》

NEXCO 西日本グループでは、ホームページや各種チラシ・リーフレット、交通安全キャンペーン等により、落下物防止に関する啓発に取り組んでいます。

また、地域コミュニティ(自動車教習所や人材シルバーセンター等)での出張講座を行うことにより、交通安全啓発に取り組んでいます。



《SAPA でのトイレボードの掲示》



《地域コミュニティでの出張講座》

4. 安全運転のお願い

≪① 漫然運転やわき見運転をしない！≫

高速道路における死亡事故の大半が、漫然運転やわき見運転によるものと考えられています。「考えごとやぼんやりしていた」「外の景色や車内の落下物に気をとられていた」などにより、前方への注意が欠けると大変危険であり、時速100kmの速度では、車は1秒間に約28mも進むため、一瞬の気の緩みで重大な事故につながる恐れがあります。

ぜひ、前掲したDRIVE&LOVEプロジェクトの「笑顔の運転」を実践していただき、前方や周辺状況に注意しながら、十分な車間距離をとって運転に集中して下さい。特に深夜・早朝の時間帯や雨天時には、速度を控えるなど安全運転をお願いします。

≪② 車外放出事故防止のために、全席・全員シートベルト着用を！≫

高速走行で衝突した場合、シートベルトを着用していないと体が車内で振り回され、ガラス部を突き破って体が車外へ放出されることがあり、路面への落下時の衝撃や後続車にはねられることにより、死亡に至るケースがあります。

シートベルトがあなたを守ります。運転席・助手席だけでなく、後部座席も全員、シートベルトを装着しましょう。

なお、6歳未満のお子様を同乗させる場合、チャイルドシートの使用が義務付けられています。

高速道路におけるシートベルト非着用者の致死率は、着用者の **約10倍 に跳ね上がります！**

(平成28年 警察庁資料による)